



オクラ栽培暦

肥料・農薬・栽培指導なら
万来屋物産株式会社
TEL 0942-44-6101

作方	収穫期	播種時期・定植時期・収穫期												備考		
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
普通	9月下旬～10月中旬				●											

判例: ●播種 ×定植 ▨収穫

- 土作り
 - 10a当たり、堆肥を1,000kg もしくは、自然の輪を200kg施し、深耕しましょう。
 - 土壌pHは、6.0～6.5が一番良く、5.5以下になると生育が悪くなります。
 - 水はけが悪いと根痛みや、根腐れの原因になりますので、排水性を良くしましょう。
 - 直根性の為、耕起深度が深く、有機物の多い土壌が収量もよくなり好ましいです。有機物の投入が難しい場合は、プロミネン(粒)を75～150kg投入しましょう。

堆肥1,000kg/10a 又は、自然の輪200kg/10a	バイタリー施用量例 (10a当たり)			
	pH 5.5前後	pH 6.0前後	pH 6.5前後	pH 7.0前後
石灰窒素を使用する場合	100～120kg	60～80kg	40～60kg	40kg
石灰窒素を使用しない場合	100～160kg	80～140kg	60～120kg	60kg

☆土壌の状態がわからない場合は、土壌検査を行いましょ！

作方	目標収量 (t/10a)	基準施肥量 (kg/10a)			元肥施肥量 (kg/10a)			追肥1施肥量 (kg/10a)			追肥2施肥量 (kg/10a)			追肥3施肥量 (kg/10a)		
		N	P	K	N	P	K	N	P	K	N	P	K	N	P	K
普通	2.2	27	10	13	16	9	9	3	1	1	4	0	1	4	0	1

作方	普通型							
	元肥	袋数	追肥1	袋数	追肥2	袋数	追肥3	袋数
普通	野菜専用423	5～6	追肥716	0.5～1	追肥716	0.5～1	追肥716	0.5～1

- マルチをしない場合は、元肥を20～30%ほど増やしてください。ただし、元肥が多すぎると、着果が悪くなりますので注意が必要です。
- 追肥1は、収穫開始前に行いましょう。以後は、草勢を見て、20～25日間隔で追肥を行ってください。
- 開花節より上に、展開葉が2～3枚ある状態を保つようにしてください。
- 生長点からすぐの所に開花し、小さい葉で、切れ込みが深い場合は、追肥を多めにし、乾燥している場合は、かん水を行ってください。
- 花の上に展開した葉が、4～5枚あり、大きな葉で切れ込みが浅い場合は、追肥を控えてください。

作方	追肥省力型			
	元肥	袋数	追肥1	袋数
普通	野菜専用423	5～6	肥実効222-15号	3～4

- 収穫開始2～3週間前に、追肥を行ってください。
- 慣行性ロング肥料で、約150日ほど安定的な肥効が続きます。曲がり少なくなり、秀品率が上がります。

- 間引き
 - オクラを播種する際は、マルチの1穴に2～3粒ほど播種し、軽く覆土を行ってください。
 - 乾燥している場合は、朝方か、夕方の涼しい時間帯にかん水を行ってください。日中の暑い時間帯は、煮える可能性があるため注意が必要です。
 - 発芽して、子葉が展開したら、生育のいいものだけを残して間引きを行ってください。

農薬名	効果雑草	使用量(10a)	使用時期	備考
バスタ液剤	1年生雑草	300～500ml	雑草生育期(播種前または、畦間処理)	

※ラベルをよく読み、使用時期、使用回数、使用方法を確認して使用しましょう！

- 剪定
 - 病害虫の発生や、生り疲れを防ぐために必ず剪定を行ってください。
 - オクラの剪定は、下葉が込み合ってきた頃から剪定を始めてください。
 - 通常であれば、着果点から下葉1～2枚を残して剪定を行ってください。
 - 樹勢が弱い場合は、成長点から4～5枚程度残して、剪定を行ってください。
 - 樹勢が強い場合は、着果点より下葉は、全て落としてください。
 - 7月末になりましたら、主枝を切り落として側枝を伸ばすようにすると収量が上がります。

草勢判断と摘葉

摘葉は収穫葉の下1～2枚の葉を残し、それ以下を取り除きます。摘葉をすることで通気性がよくなり、病気の発生予防や収穫時の作業性の向上のほか、葉が濃緑になり品質が向上するなどの効果があります。

草勢が弱い

- 茎が細い
- 葉が小さい
- 葉色が薄い
- 葉の刻みが深い

正常

生育(収穫)が進み、下葉がこみ合うようになると摘葉する。

草勢が強い

- 茎が太い
- 葉が大きい
- 葉色が濃い
- 葉の刻みが浅い

